

建物
全体配置

狭 小宅地では、建物設計当初から詳細な配置計画が必要となる。建物高さ、道路幅員との関係は、通りの印象を決める重要な要素であり、圧迫感や、不安定感を与える原因となることがある。

通りからの見え方は、1階部分に引きのスペースをとるほか、2、3階部分のセットバックによっても変化する。スペースのつくり方には、道路に対して建物を雁行させる方法もあるが、建物でアルコーブをつくり内外の空間を効果的に生かす手法もある。

- 主な手法
a. 後退する
b. 雁行配置する
c. アルコーブをつくるよう配置する



壁面が道路に迫り威圧感がある

建物
屋根

密 集市街地では、屋根面は見えないことが多いが、軒が近接しているため、高さや勾配の不揃い、斜線制限などによる不規則な形態で、雑然として見える場合がある。

雨どいや、付属の金物類は特に下屋やバルコニー廻りで複雑になりやすい。太陽熱利用の装置も例外ではない。屋根廻りの工夫と同時に外壁、開口部やバルコニーとの組み合わせで魅力あるファサードをつくる。

- 主な手法
a. スカイライン(勾配)を工夫する
b. 素材を工夫する
c. 付属物の納まりをよくする



屋根形状や素材もマチマチで調和がなく雑然としたまちなみ

<p>- a</p> <p>外壁の仕上げを分け、3階部分をセットバックさせ、圧迫感と共に不安定感を緩和している</p> <p>圧迫感を緩和する</p>	<p>- a</p> <p>奥の建物2棟は3階部分をセットバック、バルコニーは3階ルーフバルコニーとする</p> <p>圧迫感を緩和する</p>	<p>- b</p> <p>建物の内側にバルコニーを納め、すっきりした外観として雁行配置をきれいに見せている</p> <p>圧迫感を緩和する</p>
<p>- c</p> <p>2棟のカーポートを合わせ建物・階段下にもスペースをつくり樹木を植える</p> <p>ゆとりをつくる</p>	<p>- c</p> <p>RC打ち放し、ガリバリウム鋼板、木製ルーバーの組み合わせ。質感の変化でアルコーブを強調</p> <p>出入りの安全性を保つ</p>	<p>- c</p> <p>木製枠の印象的な窓で通りに表情を出す。アプローチ部分を木で構成、階段昇り口を道路に向けていない。全体がよく考えられた住宅</p> <p>調和した穏やかさを出す</p>

<p>- a</p> <p>柔らかな曲線を用いた屋根と塀が調和。浮揚感のあるデザイン屋根と開口部が軽やかさも表現している</p> <p>圧迫感を緩和する</p>	<p>- a</p> <p>下町の風景。隣棟と2階セットバックや軒高、軒出、屋根形を合わせて改築</p> <p>風情・街の記憶</p>	<p>- a</p> <p>1棟の中で統一された屋根形状(一体の建物の中で勾配を変える場合、慎重な意匠計画が必要)</p> <p>調和した穏やかさを出す</p>
<p>- b</p> <p>デザイン性のある破風と妻壁の装飾。地域のシンボルマークの馬をつけている(世田谷区 上用賀・馬事公苑付近)</p> <p>地域特性を活かす</p>	<p>- c</p> <p>小さな家の形態として、まとまった印象。縦樋を前面に見せない工夫をしている</p> <p>調和した穏やかさを出す</p>	<p>- c</p> <p>縦樋、軒樋をすっきり納めた軒天</p> <p>隣家・通りへ配慮する</p>